

企業名：トランス・コスモス

レポート名：統合報告書 2021

1. この会社が目指す姿が理解できるか

理解できます。統合報告書 2021 の内容で、会社の目指す姿や目標を分類し、明確的に述べた。

P.13 のグラフで、会社全体の目指す姿明確に書いている：「お客様企業のトップライン成長に貢献できるグローバルで唯一無二のアウトソーシング・サービス・プロバイダー」。この後、DX を推進する方向の目標、バックオフィスの目指す姿、持続可能な社会実現目標、社員方向の目指す姿（女性社員の支援、障害者の雇用など）細かく書いてある。

要するに、この会社の目指す姿はお客様企業の仲になって、デジタル技術や分析を提供し、お客様企業を全力サポートする。そうなれるため、会社は技術を上昇し、マネジメント・IT/DX 人材の育成をやり、様々な活動をする予定がある。

2. この会社の競争優位性が理解できるか

理解できます。

「業務」から見ると、トランス・コスモスが国内業者の中一番高い技術を持ち、お客様企業への深い関心を加えて、お客様企業の信用を得た。それで、一般的な会社や、大手会社もトランス・コスモスを選んで、自社のWEBサイトやデジタルサービスを任す。トランス・コスモスもいろんな業界の会社とのビジネス経験を得て、より柔軟のお客様企業のニーズを応える。

「社員」から見ると、トランス・コスモスは自分の社員も大切にしている。マネジメントやIT/DXの勉強会や授業を提供し、社員自身の能力育成を重視している。人材を育てて、会社もより多様な対応ができる。

「社会的貢献」から見ると、トランス・コスモスはいつも社会問題や事件に関心を持って、実際の行動をする。例えば、熊本地震からの震災復興のために百万円の寄付をしたなど、実際に社会へ貢献する。

3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

あると理解できます。

現在の競争優位性は簡単に消えるものではなく、長年間で作った強みである。トランス・コスモスの目標達成するためには、基本的に今の強みを強化すれば目指す姿になれると考え、今の競争優位性を保つ、さらに上昇できる可能性が高い。

トランス・コスモスは、今やっていることと将来やる予定のことを詳しく書いてある：業務の強化、人材の育成、社会・環境への貢献など、会社の行動を述べた。もし、会社本当にこの報告書の通りやれば、会社はよりいい会社になれると理解できます。

4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

達成できると思います。

前の問題でも述べた、トランス・コスモスは社員のことも大切にしている。勉強会や授業など会社からの育成だけではなく、もし社員がなんか仕事に役が立つ資格と取ったら、会社は賞金をあげ、社員のモチベーションになる。

人材育成の他、トランス・コスモスは社員の権利を守っている。社員のワーク・ライフ・バランスを重視し、残業を抑えて、仕事時間内の効率を高める。女性社員に保障があって、育児の支援や、女性管理職の割をあげるなど様々なことをしている。障害者の社員にもたくさん支援がある。例えば、仕事環境を障害者が働きやすくする。

5. 報告書にはどのような改善余地があるか

現代社会では、和語・漢語より、外来語を使うことがよりプロなイメージを立つかもしれないが、少し使いすぎたと思います。外国人の私にとって、カタカナ語は漢字より読め辛いと感じて、報告書を読む時「ここは漢字の単語を使ってもいいでしょうか」の感想が出ました。例えば報告書で「ソリューション」を多く使ったが、「解決策」を使う方が読めやすいと思います。